

ファームウェア V4.803.xx 補足説明書

本書では、ファームウェア V4.803.xx で追加/変更された機能のみを説明します。
本書に記載されている以外の内容については、製品に添付されているユーザーズマニュアルを
参照して下さい。

1. 設定メニューの変更について

ファームウェア V4.803.xx から、設定メニューを以下のように変更しました。

- 設定メニュー項目「ルーティングの設定」の追加
- 「スタティックルーティング設定」
→ 「その他の設定」から「ルーティングの設定」へ移動
- 「RIP 設定」
→ 「LAN ポートの設定」から「ルーティングの設定」へ移動
- 設定メニュー項目「ルーティングの設定」に「ソースルーティング設定」を追加
- 設定メニュー項目「制御・情報表示」に「UPnP ポートマッピング一覧」を追加



2. ソースルーティング設定について

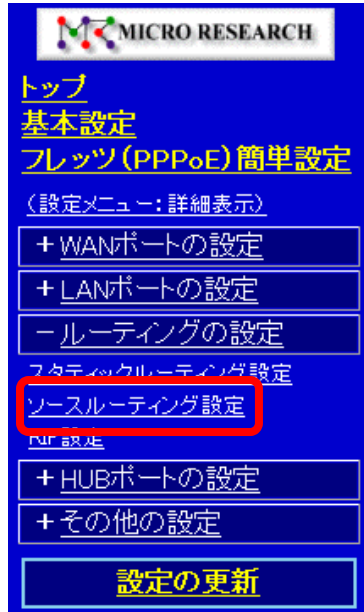
新機能「ソースルーティング機能」の設定方法について説明します。

送信元 IP アドレス(ネットワークアドレス)により、ルーティング先ポートを振り分けることができます。

確認

NetGenesis の内部では、スタティックルーティング→ソースルーティングの順番で処理されます。
スタティックルーティングおよび RIP により登録されたルーティング情報に該当した通信は、ソースルーティングでは処理されませんので注意して下さい。

①設定メニューの「ルーティングの設定」をクリックし、「ソースルーティング設定」をクリックして下さい。



②「ソースルーティング設定」画面が開きます。

ソースルーティング設定

ソース(送信元)IPアドレスによる、ルーティング情報の設定を行います。

PPPoEマルチセッション機能使用時の例

- PPPoE ポート1(セッション1) : プロバイダ-A へ接続
- PPPoE ポート2(セッション2) : プロバイダ-B へ接続
- LAN内の192.168.0.128以降 : プロバイダ-B へ接続

(NetGenesisのLANポートIPアドレス: 工場出荷値の例)

- ・ソースルーティング機能を使用する: ON (チェックあり)
- ・ソースIPアドレス/サブネット : 192.168.0.128/25
- ・ルーティング先ポート : pppoe2

■ソースルーティング機能を使用する

登録リスト

(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

ソースIPアドレス/サブネット	ルーティング先ポート	
		編集

設 定 元に戻す

<次ページへ進んで下さい>

- ③「ソースルーティング機能を使用する」にチェックを入れ、[編集]ボタンをクリックして下さい。

☒ ソースルーティング機能を使用する

登録リスト
(16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。)

ソースIPアドレス/サブネット	ルーティング先ポート
	<input type="button" value="編集"/>

- ④「ソースルーティング リスト追加・編集」画面が表示されます。

ソースルーティング リスト追加・編集

ソースIPアドレス/サブネット

ルーティング先ポート PPPoE1

- ⑤「ソース IP アドレス/サブネット」に送信元 IP アドレス(ネットワークアドレス)とサブネットマスクのビット数を入力して下さい。

(サブネットマスクのビット数を入力しない場合は、ユニキャスト IP アドレス(/32)となります。)

ソースルーティング リスト追加・編集

ソースIPアドレス/サブネット 192.168.0.254/32

ルーティング先ポート PPPoE1

- ⑥「ルーティング先ポート」を選択して下さい。

ソースルーティング リスト追加・編集

ソースIPアドレス/サブネット 192.168.0.254/32

ルーティング先ポート PPPoE1

PPPoE1
PPPoE2
wan
default_out (デフォルトゲートウェイ)

PPPoE1	PPPoE ポート 1(セッション 1)へルーティングします。
PPPoE2	PPPoE ポート 2(セッション 2)へルーティングします。
wan	WAN ポートへルーティングします。(※1)
default_out	スタティックルーティング設定でデフォルトゲートウェイに設定したポートへルーティングします。(※2)
※1: WAN ポートで以下の動作モードを選択し、かつスタティックルーティング設定で「LAN 上のデフォルトゲートウェイを使用する」設定にした場合に該当します。 ・ DHCP クライアント IP アドレス自動取得 [IP マスカレード変換有効] ・ IP アドレス固定 (1~16 個) [IP マスカレード変換有効] ・ IP アドレス固定 アンナンバード(unnumbered) [IP アドレス変換無効] ・ ローカルルータ [IP アドレス変換無効]	
※2: 「LAN 上のデフォルトゲートウェイを使用する」設定にした場合、LAN 上のデフォルトゲートウェイにはルーティングされません。	

<次ページへ進んで下さい>

- ⑦[追加]ボタンをクリックして下さい。
入力したソースルーティング情報が登録リストに追加されます。

☑ソースルーティング機能を使用する

登録リスト

〈16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。〉

ソースIPアドレス/サブネット	ルーティング先ポート	
192.168.0.254/32	pppoe2	編集 削除 ▲ ▼ 先頭 最後
		編集

ソースルーティング リスト追加・編集

ソースIPアドレス/サブネット 192.168.0.254/32

ルーティング先ポート PPPoE2 ▼

追加 元に戻す

確認

登録リストの順番が、そのまま処理の「優先順位」になります。
「追加したエントリが最後尾にある＝一番最後に処理される」ということになりますので、必要に応じて追加したエントリを移動して下さい。

- ⑧登録が完了しましたら、[設定]ボタンをクリックして下さい。

☑ソースルーティング機能を使用する

登録リスト

〈16個まで登録可能です。上から優先順位の高い順番になります。〉

ソースIPアドレス/サブネット	ルーティング先ポート	
192.168.0.254/32	pppoe2	編集 削除 ▲ ▼ 先頭 最後
		編集

設定 元に戻す

以上でソースルーティング設定は完了です。

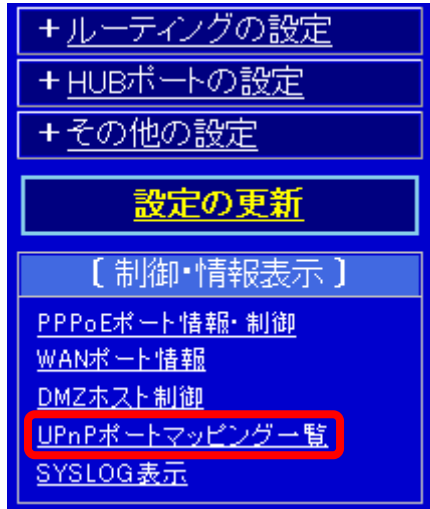
設定メニューから「設定の更新」をクリックし、設定の更新、再起動を行って下さい。

3. UPnP ポートマッピング一覧

UPnP ポートマッピング一覧について説明します。

本画面では、LAN 側の UPnP 対応端末 もしくは UPnP 対応ソフトウェアが、UPnP によって NetGenesis に登録したポートマッピング情報を、確認・消去することが可能です。

①設定メニューの「制御・情報表示」の中の、[UPnP ポートマッピング一覧]をクリックして下さい。



②「UPnP ポートマッピング一覧」画面が開きます。

UPnP ポートマッピング一覧									
NetGenesisに登録されている UPnP ポートマッピング情報を表示/消去します。 「消去」にチェックを入れ、[消去]ボタンをクリックすると UPnP ポートマッピング情報が消去されます。									
消去	内容	有効/無効	有効期限	プロトコル	リモートホスト	外部IPアドレス	外部ポート	内部IPアドレス	内部ポート
<input type="checkbox"/>	msnmsgr (192.168.0.2:10606) 14513 UDP	有効	無制限	udp	*	192.168.100.100	14513	192.168.0.2	10606
<input type="checkbox"/>	msnmsgr (192.168.0.2:16167) 13223 UDP	有効	無制限	udp	*	192.168.100.100	13223	192.168.0.2	13223
<div>消去</div> <div>元に戻す</div> <div>最新の情報を更新</div>									

■消去(チェックボックス)

→ポートマッピング情報を消去する場合、チェックを入れます。

■内容

→UPnP 対応ソフトウェアによって登録された内容を表示します。

■有効/無効

→登録されたポートマッピング情報の状態を表示します。

■有効期限

→登録されたポートマッピング情報の有効期限(秒)を表示します。
有効期限がない場合は、「無制限」と表示されます。

■プロトコル

→登録されたポートマッピング情報のプロトコル(TCP または UDP)を表示します。

<次ページへ進んで下さい>

■リモートホスト

- 登録されたポートマッピング情報の通信相手を表示します。
「*」と表示されている場合、通信相手が特に指定されていないことを示します。

■外部 IP アドレス

- 登録されたポートマッピング情報の外部 IP アドレス (NetGenesis の WAN 側 IP アドレス) を表示します。

■外部ポート

- 登録されたポートマッピング情報の外部ポート番号 (NetGenesis の WAN 側の TCP/UDP ポート番号) を表示します。

■内部 IP アドレス


- 登録されたポートマッピング情報の LAN 側 IP アドレスを表示します。

■内部ポート

- 登録されたポートマッピング情報の LAN 側の TCP/UDP ポート番号を表示します。

■[消去]ボタン

- 消去するポートマッピング情報の左端にチェックを入れ、本ボタンをクリックすると、ポートマッピング情報が消去されます。

	UPnP 対応ソフトウェアが動作している際に、ポートマッピング情報を消去すると、ソフトウェアの動作に問題が発生する可能性がありますので、注意して下さい。
	NetGenesis の電源 OFF/ON や再起動を行うと、ポートマッピング情報は全て消去されます

■[元に戻す]ボタン

- 画面を元の状態に戻します。
ただし、「消去」済みのポートマッピング情報は、元に戻せません。

■[最新の情報に更新]ボタン

- 「UPnP ポートマッピング一覧」画面の表示内容を更新します。

●NetGenesis にポートマッピング情報が登録されていない場合以下のように表示されます。

- [最新の情報に更新]ボタンをクリックすることにより、表示内容を更新することができます。
(自動更新はされません。)

UPnP ポートマッピング一覧

NetGenesis に登録されている UPnP ポートマッピング情報を表示/消去します。
「消去」にチェックを入れ、[消去]ボタンをクリックすると UPnP ポートマッピング情報が消去されます。

消去	内容	有効/無効	有効期限	プロトコル	リモートホスト	外部IPアドレス	外部ポート	内部IPアドレス	内部ポート
----	----	-------	------	-------	---------	----------	-------	----------	-------

消 去

元に戻す

最新の情報に更新

4. その他 (OPT-GFive、OPT100E のみ)

ファームウェア V4.803.xx から以下の仕様が変更されています。

●旧仕様

NetGenesis の動作モードが IP アドレス変換有効の場合、LAN 側から WAN ポートが保持している IP アドレスに対してのアクセスを許可しない。

●新仕様

NetGenesis の動作モードが IP アドレス変換有効の場合、LAN 側から WAN ポートが保持している IP アドレスに対してアクセスすると、設定内容(※)に従って NetGenesis 内部で LAN 側 IP アドレスへルーティングする。

※NAT 変換・・・NAT 変換対象の LAN 側 IP アドレス

IP マスカレード変換・・・IP マスカレードテーブル設定に登録した変換先 IP アドレス

確認

上記仕様変更は OPT-GFive と OPT100E のみが対象です。
OPT-TS は出荷版ファームウェア (V4.606.00) から新仕様に対応しています。